



内閣府（防災担当）

火山防災に係る調査企画委員会（第6回） 議事要旨

1. 日時

令和3年3月8日（月）15:00～17:00

2. 出席者

森田座長、青山、伊藤、大野、関谷、西出、西村、前野、矢崎、荒竹、鎌田、三上、青木各委員、藤村（地理院）他

3. 議題

- (1) 令和3年度予算案における火山防災対策関係予算
- (2) 関係機関の施策・研究の連携のための令和4年度概算要求に向けた進め方
- (3) 最近の火山防災対策の取組状況
- (4) 令和元年度に検討した施策・研究の方向性のとりまとめに向けた意見交換
 - ・「噴火予測・前兆現象の評価」
 - ・「噴火後の推移の評価」
- (5) 「火山活動により変化した地形データ共有の検討チーム」からの報告

4. 議事要旨

- 行政委員及び事務局（内閣府）から、令和3年度予算案における火山防災対策関係予算や最近の火山防災対策の取組状況について説明し、情報共有を図った。
- 事務局（内閣府）から、令和4年度概算要求に向けた進め方について、説明を行った。
- 事務局（内閣府）から、「噴火予測・前兆現象の評価」「噴火後の推移の評価」に資する施策・研究の方向性（報告案）について説明し、とりまとめに向けた意見交換を行った。
- 検討チームの主査担当から、火山活動により変化した地形データ共有の検討結果について説明し、とりまとめに向けた意見交換を行った。
- 各委員より頂いた主なご意見は下記のとおり。

<令和元年度に検討した施策・研究の方向性のとりまとめに向けた意見交換>

・「噴火予測・前兆現象の評価」

(火山毎の中長期的な噴火リスク評価)

○火山噴火様式や推移の類似性を詳細に調査すれば、中長期的(今後100年程度以内)な噴火の可能性を推定できる可能性がある。

○その際、いくつかの火山に注力するのが適切である。噴火履歴がよく調査されている火山は、社会的な影響も大きなところが多く、まずはそのような火山を優先して検討するのが良いのではないか。

(水蒸気噴火の予測)

○噴火切迫度を時間軸まで含めて評価する手法の開発は短期間では困難である。地下比抵抗構造の調査を進め、水蒸気噴火の潜在的な可能性を調査することが、噴火切迫度の評価手法開発を進める第一歩となる。

○想定火口域を推定し、そこを集中的に監視し、微弱な異常も検出することで、噴火が切迫していることをより精度よく評価できるようになるのではないか。

・「噴火後の推移の評価」

○現在の火山学では、噴火後の推移を正確に予測することは困難であり、その精度を少しでも向上させるためには、過去の噴火の事例やその時の火山災害を、歴史資料も活用し、整理しておくことが効果的。

○噴火事象系統樹は次の事象に備えるという観点で重要であり、起こり得る推移の全体像を整理しておくことが防災にも有効。

<「火山活動により変化した地形データ共有の検討チーム」からの報告>

○各機関が公開した地形データを国土地理院ホームページでリンク集として一覧できるようなことは、評価できる。

○緊急時の円滑なデータ共有には、平時から相互理解を図ることが重要である。

以上